

平成 29 年度 第 11 回武蔵野市環境市民会議 議事要録

日時 平成 29 年 5 月 24 日 (金) 18 時 30 分開会

場所 武蔵野市役所 412 会議室

出席者 委員 14 名、事務局 5 名

(委員：大江委員長、新井委員、一之瀬委員、伊藤委員、落合委員、小玉委員、小林委員、藤野氏(首藤委員代理)、力元委員、中野委員、西上原委員、花俣委員、松岡委員、山根委員)

内容 武蔵野市地球温暖化対策地域プラン(案)について
その他

武蔵野市地球温暖化対策地域プラン(案)について

発言者	要旨
事務局	(「武蔵野市地球温暖化対策地域プラン(案)」、以降「プラン(案)」と表記について説明)
委員長	地球温暖化については、国のエネルギー政策の変化もあり、動く指標を扱っており、とても難しい問題である。 また、武蔵野市は家庭からの二酸化炭素の排出量が多いため、市民が取り組むべき内容を盛り込んだプラン(案)である。 気づいた点があれば意見をいただきたい。パブリックコメントの前段階として意見をできるだけ反映させたい。
事務局	(パブリックコメントに関連する武蔵野市地球温暖化対策地域プラン(案)の今後のスケジュールについて説明)
委員	プラン(案)に、二酸化炭素以外の 6 種類の温室効果ガスについても削減対象とする、と記載があるが、「市の状況」や「今後の取り組み」の項目で、それらのガスに関する記載がない。 また、温室効果ガスの排出状況に関して「本市と多摩地域は同じ傾向で推移しています。」とあるが、多摩地域のグラフ・数値がないので比較検討ができない。
委員長	武蔵野市の温室効果ガス排出量の 90%以上は二酸化炭素が占めているが、二酸化炭素以外の温室効果ガスについても計算し算入されている。 そのため、文章として記載はなくとも、6 種類の温室効果ガスも二酸化炭素同様に削減対象としている。また、6 種類の温室効果ガスといえば、メタンガスの二酸化炭素排出係数が高く、廃棄物から発生するため武蔵野市以外で問題となっている。排出状況に関するグラフについてはどうか。市外でも温室効果ガス排出量の大部分を二酸化炭素が占めていると

	思うが、本当に多摩地域と似たような数値か。
事務局	指摘のとおり、具体的に見えるようにはなっていない。
委員長	他に意見はあるか。
委員	家庭が二酸化炭素の排出量の大部分を占めているが、家庭に向けた具体的な対策が記載されていない。
委員長	2011 年震災の際は、家庭部門においても電力使用抑制が進められた例があるように、家庭部門の影響力は大きいといえる。指摘の点についてはパブリックコメントをもらってプラン（案）に反映する方法もある。事務局はこの点についてどう考えるか。
事務局	エネルギー消費のグラフで、国レベルでは産業部門の構成比が大きい。武蔵野市は家庭部門が大きいことがポイント。プラン（案）には第四期環境基本計画の施策が記載されている。その中では、家庭に対しての具体的な取り組みは記載していない。
委員	<p>震災以降、二酸化炭素排出係数が大きくなったため、排出量の数値としては目立った減少は見られないが、エネルギー消費量の推移の表をみると、ここ数年で消費量が減少しており、一定の省エネの効果が出ていることが読み取れる。</p> <p>プラン（案）では、「さらなるエネルギー消費の削減」を重要なポイントとして掲げており、今後も進めていく必要性は理解できる。一方で二酸化炭素排出係数の少ない再生可能な代替エネルギーに置き換えていくという視点も必要なのではないか。</p> <p>例えば、太陽光の利用を市民レベルでさらに広げるとか、その他にも電気自動車や PHV（プラグインハイブリッド）自動車などに置き換えることも推進していったほうが、エネルギー消費の削減だけをポイントにして取り組むよりも効果が出ると思う。次にプラン（案）の中の「平成 42 年度に平成 25 年比で 26%削減」の数値目標はどのように達成するのか。市民としてはどのように達成するのか実感が湧かない。プラン（案）にエネルギーを代替する具体的施策などが記載されていればよいのではないか。</p>
委員長	事務局のコメントはあるか。
事務局	排出量の削減には、エネルギー消費量を減らすか、代替して係数を減らすかどちらかしかない。
委員長	今の指摘は大事だと思う。武蔵野市では温室効果ガス排出量の削減数値目標を定めている。エネルギー消費量削減の目標に加え、係数の低い代替エネルギーの採用についても目標として並列して述べたらよいのではないか。

委員	このプラン（案）の施策体系は、各施策の順序を変えるなど、構造化した記載が必要ではないか。 温室効果ガスの排出を抑制して、温暖化を食い止める対策のことを「緩和策」と表現しているが「抑制策」のほうがわかりやすいのではないか。また、「緩和策」として記載されている歩行者や自転車に関する取り組みが、どのように排出量の緩和につながるのかわからない。
事務局	国等が使用する一般的な使い方であるため、「緩和」と表現しているが、委員の意見も参考にしたい。自転車の取り組みに関しては、具体的にパブリックコメントも経て、本当に必要かどうか検討していく。
委員長	自転車の取り組みの主旨は、できるだけ公共交通機関を使うようにする、などの自動車使用の抑制の意味ではないのか。
事務局	そのように考えている。
委員長	他に意見はあるか。
委員	温室効果ガス 26%削減のために、具体的な取り組みはあるのか。
事務局	年度ごとの制度によって予算が変わってくるため、今の時点で将来の具体的な取り組みについて言及することは難しい。
委員長	プラン（案）に記載されている施策について、環境部以外のかかわりはあるのか。
事務局	施策の中には、全庁にかかわっているものがある。例えば、水素自動車は管財課、ムーバスは交通対策課が主管課となるのでしっかり調整していきたい。
事務局	具体的なものとしては、例えば昨年度、むさしの自然観察園で地中熱を利用した温度差エネルギー利用の取り組みを行い、実証中である。 今後エネルギー分野では具体的にどのような数値目標を立てるのか、検討が必要とも考えている。
委員	企業からの目線として見てみると、社内では、温室効果ガスを 2030 年度に 2013 年度比 26%削減という国の目標達成は、イノベーション（技術革新）がないと難しいとの意見がある。プラン（案）ではエネルギー使用量削減に着目した施策のみで、市の目標達成は難しいのではないか。 例えば、「捨てているエネルギーをどう活用するのか」、などの現状の技術で実現・効率化できる、という視点が基本的に大事と考える。
委員長	現場でイノベーションの話題はあるか。
委員	具体的な議論にはなっていないが、たとえば燃料電池車やごみ発電のような余剰電力の活用について話題にあがっている。
委員長	コージェネレーションは発電効率何%か。
委員	発電効率自体は 40%前後で排熱等の利用が 40 数%ほどであり、総合効率

	として 80 数%以上になる。
委員長	他の委員からは何かあるか。
委員	同じ企業の目線から。電力会社としては、バーチャルパワープラント構 想がある。2年後くらいに具体化を考えている。バーチャルパワープラ ントとは、各家庭や事業所で作った電気を統合制御しすべてを一つの発 電所のように機能させること。無駄な発電をしなければ発電による二酸 化炭素発生量の抑制につながる。
委員	学校では、3R や節電、節水などの取り組みをしている。武蔵野市では家 庭からの排出量が多いとのことなので、子どもを通して家庭への啓発に つながるのではと考えている。 今回のプラン（案）は、学校が環境について改めて考えるきっかけとも なる。また、教職員も正しい知識を身に付け、子どもたちに還元してい く必要があると考えた。
委員	今回のプラン（案）はパリ協定を受けて作成されたと思うが、武蔵野市 では過去、京都議定書を受けてどのような活動・効果があったのか。 また、温室効果ガスのうち、フロン類は使用規制されていると思うのだ が、現在も使われているのか。
事務局	手元に資料がなく、フロン類に関する質問には即答できない。改めて返 答する。 武蔵野市では、第二期環境基本計画から削減の数値目標を出したことが あったが実際は達成できなかった。第三期環境基本計画の数値目標に関 してはまだ結果は出ていないが、目標達成は難しいのではないかと考 えている。
事務局	補足として、武蔵野市で主に使われているフロンはハイドロフルオロカ ーボン（HFC）である。これは、冷蔵庫の冷媒やスプレー缶などで使用さ れている状況である。現在はフロン規制法による規制が厳しくなってき ており、今後減っていくのではないかとと思われるが、実際は HFC が少 しずつ増えていっていることがデータから読み取れる。
委員長	生産は減っているが、回収と処理が思うように進んでいない。その結果 がデータに表れているのではないかと。
委員	現在、HFC は代替フロンであって、オゾン層の破壊防止につながっている。 しかし、温室効果ガスではあるので地球温暖化防止にはつながっていない。
委員長	HFC 等の従来のフロンは温暖化への影響は低いと、オゾン層を破壊する。 逆に代替フロンはオゾン層を破壊しないが、温暖化への影響が大きく問 題がある。

委員	市役所の進める省エネに関する取り組みモデルを家庭に普及させるような努力をしてほしい。また、市内の様々な廃棄物処理業者の規制も市で考えてほしい。
委員	データで見ると、家庭から出す温室効果ガス排出量が多いということは分かるが、一方で市民として日常的に温暖化が進んでいるとの実感が湧きにくいと感じる。プラン（案）では市全体の排出量を示しているだけであるので、例えば、1家庭あたり具体的にどれくらいのエネルギー消費や、温室効果ガスの排出があるかを文中に示すことで、実感が湧くのではないか。
委員長	今後のスケジュールについて事務局から説明がある。
事務局	（地球温暖化対策地域プラン（案）に関する、今後のスケジュールについて説明。）
委員長	その他なにかあるか。
その他	
発言者	要旨
事務局	（次回会議予定について説明）